



『エンジョイ ロータリー』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

東京六本木ロータリークラブ



『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real ～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年9月1日

No. 7

平成20年7月14日

卓話 『フランスのロータリー』

パリRC会員・ESMOD INTERNATIONAL PRESIDENT

仁野 覚 様

仁野でございます。私、通算26年フランスにおりまして、今、デザイナーやパタンナーなどを養成する学校の仕事をしております。

今日の命題はパリのロータリークラブ。私、約13年、パリのロータリークラブにあります。今日こちらにお邪魔して1分も遅れないでスタートしたので、やっぱり日本だなって感心しました。フランスの場合、時間通りに始まるのは見たことがない。まず入口にバーカウンターがあって、みんな食前酒を飲みながら例会の始まるのを待っています。例会はワインが飲み放題で食事もフルコース。50分ぐらいゆったり食事をして、あと30分が卓話です。必ず質疑応答があって、卓話の後に会員が手を挙げて出てくるんですね。そして、あなたはこう言ってるけど、そのデータは私のデータと全然違う。だから私はあなたの言うことに賛同しないと。日本だったら考えられないでしょ。それを聞いたとき、フランス社会のあり方、討議の中で真理を追求していく、ある種の知的なゲームを楽しむ国民性なのだと納得しました。

例会はロータリーソングも国旗もなし。会長、幹事、卓話者、ゲスト、それに会員の中から順番で大体8名ぐらいが演壇上で食事。会長は金ぴかのベルトにメダルをぶら下げて、一寸形式ばつてるかなという感じです。

あとニコニコボックスもないんですね。どういうふうに基金を集めるかというと、会費と、あとバレンタインデーにはクラブがチョコレート屋さんとタイアップして皆さんに買っていただいたらしくする。一番お金が集まるのが11月に恒例のワインの競り売りです。フランスの場合、大体皆さん地下のカーブを持っていて、会員の方も昔買ったワインが結構あるんですね。それを持ってきて10万円前後するワインを5,000円ぐらいから競り始めるんです。大体200本ぐらい出ますから200万はくだらない。このイベントだけでロータリーのいろんな活動に使える資金が集まる。

何よりもびっくりしたのはポール・ハリス・フェローです。我々のクラブでフェローになれるのは年に1人。寄付金を出してもなれない。言ってみればパリ・ロータリークラブの年間MVPがフェローをいただくので、それをいただけるのは大変名誉なことです。

会員は180人から90人おりまして常時150人ぐらいは出席します。特徴的なのは会員増強をうるさく言わないこと。退会者があれば声を掛け、会員の数は安定しています。

いろんな交流会、催し物、旅行は毎年よく企画されていて、年に3回ぐらいは国際的な旅行をセットして大体同伴で行く。音楽会だとか演劇の鑑賞会、美術館巡りもありますし、同好会もブリッジやハンティング、ワイン、自転車などがあります。年に1、2回のゴルフ大会も、ゴルフをやる女性、奥様が参加されて、同伴でやります。

顕彰活動はパリ・ロータリークラブ文学賞というのがありまして、年1回、素晴らしい本を書いた方を選んで顕彰したりします。一寸変わったところでは市民賞という、市民として素晴らしいことをされた人を顕彰しようということで、先日火事のときに高齢者を救助した16歳の少年を顕彰しました。

私、ロータリークラブのメンバーになったお陰で、こういう広い世界の方々とお付き合いができたり、浅田さん初め金沢ロータリーの方々が妻を日本ファンにしてくださったお陰で、独身生活に終止符を打つことができまして、本当にロータリーのお陰だと思っております。ありがとうございました。

